

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富士あけぼの園 吉原中央・遊			
○保護者評価実施期間	令和7年10月15日		～	令和7年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	令和7年10月15日		～	令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されている。	職員の専門性向上のため、法人内外の研修機会を確保し、施設内研修を月1回以上実施している。	研修後に収集した情報をアップデートし、継続的な質の向上につなげていく。
2	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われている。	個々の特性に合わせた活動や、集団で楽しめるプログラムを採用し、社会性や達成感を育むことを意識しています。	人と関わる場を積極的に設け、コミュニケーション力や協調性を育てる取り組みを行う。
3	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適宜応じ、面談や必要な助言を行っている。	その児童に合った環境づくりを意識し、安心して過ごせる場を整えている。	関係機関との連携を強化し、情報共有や交流の機会を設けることで、家族が孤立せず支援を受けやすい体制を整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解が不足している。	就学前施設と事業所・学校間で情報共有の仕組みや責任が明確でなく、個人情報保護への過度な懸念や共通理解不足により連携が不十分である。	保護者の同意を得たうえで情報共有のルートを整備し、ICTやフォーマットの活用、引き継ぎ会議の設定、職員研修の充実、保護者への丁寧な説明により連携強化を図る。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	放課後児童クラブとの連携が難しい要因は、運営体制の違い、情報共有の仕組み不足、職員間の調整困難など現実的な制約があるためである。	地域交流が難しい現状を踏まえ、同法人グループ内の他施設との交流活動を取り入れ、地域ではないが他の子どもと関わる機会を設けることで社会性や協調性を育む。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営が不足している。	地域住民を招待しても施設のスペースが狭く、感染症リスクへの配慮や施設営業時間と地域行事の開催時間の不一致により、地域に開かれた事業運営が困難である。	地域住民との交流はオンラインや屋外イベントの活用、時間調整、感染症対策を徹底するなど、柔軟な方法で地域に開かれた事業運営を図る。